

## イエスに従う者は、世界に出ていく

先週、復活を見て、マルコの福音書 16 章を終えました。先週の箇所が、全ての人同意しているマルコの福音書を構成している最後の部分です。今朝、私たちはマルコの福音書の最後の部分である 16 章 9 節から 20 節をみていきますが、ここで大きな問題に直面しなければなりません。今朝のメッセージの最初の部分は、非常にアカデミックで、何ら実用的ではないと感じる人もいるかもしれませんが、この大きな問題を取り上げなければなりませんので我慢してください。しばらく我慢していただければ、今朝の聖書箇所に入ってまいります。イングリッシュ・スタンダード版 (ESV) では、いくつかの英語の聖書と同じように、9 節の冒頭に括弧付きの注釈があり、**[最古の写本には 16:9-20 が含まれていないものもある]** と書かれています。日本語の新改訳聖書は別のアプローチをとっており、その注釈を脚注に載せています。

**[マルコ 16:9-20 を加える写本は多いが、重要な写本には欠けている。]** 英語の聖書にも脚注がありますので、日本語の脚注と同じように読んでみると次のようになっております。これらの注釈は紙媒体の聖書ではみることができますが、ほとんどの電子版では、これらの注釈を見ることができません。これが、私が紙媒体の聖書を用意することを勧める理由の一つです。ここで、日本語の新改訳聖書は、英語ではニューアメリカンスタンダード版だけがやっていると思われる、実に興味深いことをやっており、9 節から 20 節だけでなく、エンディングについても、異なる二つの選択肢を示しているのです。8 節の最後に日本語では、次のように書かれています。**( ) 内は短い補遺 (ほい)。少数の異本にある。〔彼女たちは、命じられたすべてのことを、ペテロとその仲間たちに短く伝えた。その後、イエスご自身が彼らを通して、きよく朽ちることのない永遠の救いの宣言を、日の昇るところから日の沈むところまで送られた。アーメン。〕** 英語のイングリッシュスタンダード版も同じように、脚注に別のエンディングを記しています。(英語) まず、8 節の後に追加された、日本語では「アーメン」で終わっている箇所について説明してまいります。私たちが辿ることのできるテキストの歴史研究から、このエンディングがオリジナルではないことは明らかで、これは聖書の中から取り除かれるべき箇所です。8 節で終わるのは奇妙に感じられるので、歴史のある時点で付け加えられたのか、あるいは、当時、写本をした人が別の終わり方があることを知っていたが、別の終わり方 (9-20 節) がどの写本にも載っていなかったかのどちらかだと考えられます。この点に関して他にも議論はいろいろありますが、主要なテキストである 9-20 節に話を戻しましょう。

この聖書箇所が、マルコによって書かれたオリジナルの聖書箇所であるかどうかを判断するのは非常に難しいと思われまます。私自身は、マルコはこの福音書を 16 章 8 節に述べられているように、復活を見て、怯える女性たちで締めくくった、と解釈しております。8 節で終わっていると考える理由はいくつかありますが、正直なところ、8 節でマルコの福音書は終わっていないと考えられる文学的、文法的な理由もいくつかあり、はっきりしたことを言うことはできません。まず、ギリシャ語的には、文法として間違っている文の形で終わっています。また、非常に唐突な形で終わっており、文章としておかしいと感じられるのも事実です。そして、福音が始まったことに焦点を当てずに、福音書を終えているのも奇妙に思えます。とはいえ、これがペテロの福音に関する記述であることが強調されており、ヨハネのような丁寧な説明ではなく、赦しだけに焦点を当てて、シンプルな内容で締めくくられているのは理にかなっているとも考えられます。マルコはこの福音書全体を通して、出来事について唐突に記述を終わらせることも多く、この書物が唐突に終わっても驚くにはあたりません。マルコは私たちが知る必要がある真実、すなわちイエスは神として認められ、よみがえることによってそれを証明された、という真実を記述してこの福音書を終わらせているのです。9-20 節に書かれたことは、その主要な真実を何ら補足するものではありません。なので、8 節で終わると考えるのは理にかなっていますが、9-20 節を含めた方が理にかなっているとも考える理由もあるのです。

まず、聖書の中の文章の文法的な問題やマルコが知る必要のある真実のみに焦点を当てたという点以外にも、(8 節で終わっていたことを示す聖書以外の) 外的な証拠があるのです。9-20 節の長いエンディングを含んだバージョンの写本がかなり古いものであることは間違いなく、実際、西暦 160 年から 170 年までにはそれが書かれていた証拠がいくつか見つかっています。しかし、現存する 2 つの最古の写本にはそのエンディングは含まれておらず、テキストに注釈を加えた初期の教父たちの多くもその存在を知らないように見受けられます。この点は非常に重要です。というのも、小さな断片から全てが揃った新約聖書まで、数千の聖書の写本が存在していますが、これらのたくさんの写本の間では奇跡的に書かれたことの一一致が見られるからです。確かに、多くの写本には 9-20 節が含まれていますが、その一方で、最古の写本には 9-20 節がなかったと証言している、初期の教父たちの証言を無視することもできないのです。9-20 節が聖書に最初から含まれていたことを擁護する学者たちは、エジプトの影響を受けたアレキサンドリアの地域で作られた初期の新約聖書の写本には、9-20 節はなかったが、時間の経過とともに姿を消した他

の地域で作られた写本には含まれており、これらの写本は、後の2世紀になってコンスタンチノーブルの周辺で発見された、と主張しています。しかしながら、これらは聖書自体の中から得られる証拠ではありません。

しかし、(聖書以外の) 外的な証拠に加えて、マルコの福音書の本文自体にも、9節から20節はもともとマルコの福音書の一部ではなかった可能性が高いと考えられる内的な証拠がたくさんあるのです。まず、最も明白な問題は、9節と8節の間に明確なつながりを見出すことができないという点です。8節では女性たちの恐れに焦点が当てられています。8節では、彼女たちは墓を出て、そこから逃げ去った。震え上がり、気も動転していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。と書かれています。この結末は、9節にどのようにつながっていると考えられるのでしょうか？9節では、さて、週の初めの日の朝早く、よみがえったイエスは、最初にマグダラのマリアにご自分を現された。彼女は、かつて七つの悪霊をイエスに追い出してもらった人である。と書かれています。マグダラのマリアは、(マルコの福音書の) キリストの死から復活に至るまですべての聖句の中で主要な焦点が当てられてきたにも関わらず、なぜ今、9節になって、初めて彼女が登場した人物のように扱い、彼女を紹介するために、突然、以前は悪魔に取り憑かれていたという事実を語っているのでしょうか？さらに、9-20節にはマルコの福音書の他の部分とは異なる文法、異なる言い回しが使われています。かなり専門的な話になりますが、単語を数えたり、ギリシャ語の文法を詳しく分析する人々は、9-20節で使われている主要な接続詞や接続の単語が、マルコの福音書の他の箇所によく使われている単語とは異なっていることを、指摘しています。先に指摘したESVと新改訳から読み上げた注釈や補遺に述べられた中間的な終わり方と呼ぶべきものが存在すること自体が、9-20節が初期の聖書には含まれていなかったことを示しています。もし9-20節がマルコの初期に書かれた聖書全てに現れるのであれば、このような注釈や補遺は必要なかったはずなのです。これが(9-20節に関する) 主な外的な証拠と内的な証拠であります。聖書学者たちは何千ページにもわたり、また多くの時間をかけてすべての証拠を調査しています。私自身は、この箇所は初期の聖書には含まれていなかったという主張に傾いていますが、しかし、私はこの聖書箇所が私たちの聖書に残っていることは重要なことだと思っています。今朝は、聖書にはっきりと書かれている他の箇所なども利用しながら、実際にこの聖書箇所から説教いたします。

ここにこの聖書箇所が存在することは良いことなのです。なぜならば、聖書を開いて、「この文章には問題があることを知っている」と書かれているのを見ることで、私たちは神の御言葉に対する信仰を深めることができるからです。過去2000年にわたる考古学的発見によって、マルコの福音書1章1節から16章8節までが、聖霊の靈感のもとにマルコが書き記した神の言葉であることは間違いないことがわかっています。(マルコの福音書16章9-20節のように) 不確かな箇所は新約聖書には4つしかないのです。これらは、ヨハネの福音書7章53節-8章:11節の姦淫で捕らえられた女の箇所、ルカの福音書22章43-44節の十字架上のイエスに天使が現れ、イエスが血の滴を流した箇所、そして第一ヨハネの手紙5章7-8節の三位一体論を挿入した箇所の、4つです。神が時代を超えてこれらの聖書の言葉を保存してきたという事実は、聖書自体が無謬の(完全な誤りのない) 神の言葉であることを証明しています。聖書から1500年後に書かれたシェイクスピアの戯曲は、印刷機を使って複製することができたとはいえ、聖書よりもはるかに少ない部数しか残っていないのです。さらに、聖書の写本が何千部もあるのに比べ、シェイクスピアの戯曲の写本は少ない部数しか残っていないにも関わらず、1550年代の彼の時代に書かれた写本ですら、聖書よりもたくさんの箇所で写本ごとの違いを見ることができるのです。ですから、論争になるようなごくわずかな箇所を指し示すことができるということは、聖書に実際に何が書かれているのか確信が持てるということなのです。なぜならば、神が私たちに何を語っているのかを推測する必要がないからです。第二テモテの手紙3章16-17節に次のように書かれています。聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。<sup>17</sup>神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。だから、今日まで見てきたマルコの福音書のすべての箇所において、キリストに従う者となるためには、この書に啓示されたことに従わなければならない、という真実が語られてきたと、確信を持って言うことができるのです。そしてその啓示されたこととは、イエスはあなたの救い主となるために十字架上で死なれた神の御子であり、罪を悔い改めてイエスを受け入れることによってのみ、あなたは罪から救われるという真実なのです。

しかし、マルコの学びを終えるにあたって、この聖書箇所について(他の箇所と) 同じレベルの確信を持つことはできませんが、この最後の箇所のメッセージが、イエスが弟子たちに残したメッセージであり、私たちにも残したメッセージであることに確信を持つことはできます。その理由については、今日のマル



この福音書をまとめる中で説明していきます。それでは、今朝の聖書箇所を読みましょう。(さて、週の初めの日の朝早く、よみがえったイエスは、最初にマグダラのマリアにご自分を現された。彼女は、かつて七つの悪霊をイエスに追い出してもらった人である。<sup>10</sup>マリアは、イエスと一緒にいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行って、そのことを知らせた。<sup>11</sup>彼らは、イエスが生きていて彼女にご自分を現された、と聞いても信じなかった。ここで一旦、他の聖書箇所を見ましょう。ルカの福音書8章2節には、マグダラのマリアが悪霊を追い出してもらったことが書かれており、ルカの福音書24章10-11節でも同様のことが語られています。それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、<sup>11</sup>この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。それでは12節から続けましょう。<sup>12</sup>それから、彼らのうちの二人が徒歩で田舎に向かっていたとき、イエスは別の姿でご自分を現された。<sup>13</sup>その二人も、ほかの人たちのところへ行って知らせたが、彼らはその話も信じなかった。再度ここで、止まりましょう。この出来事についても、ルカの福音書に同様のことが書かれています。ルカの福音書24章13節と15節には次のように書かれています。ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから六十スタディオン余り離れた、エマオという村に向かっていた<sup>15</sup>話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。それでは14節から続けます。<sup>14</sup>その後イエスは、十一人が食卓に着いているところに現れ、彼らの不信仰と頑なな心をお責めになった。よみがえられたイエスを見た人たちの言うことを、彼らが信じなかったからである。この聖書箇所は、ルカによる福音書の記述ほど明確ではありませんが、ルカの福音書24章36-39節に書かれていることに非常に近い出来事を述べています。これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。<sup>37</sup>彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。<sup>38</sup>そこで、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。<sup>39</sup>わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはあります。」このようにマルコの福音書に付け加えられたこの箇所は、私たちが聖書の一部であると確信を持って言える他の聖書箇所に反することは何一つ書かれていません。そして、イエスが死からよみがえったことを証明するためには、ここまで書かれた詳細も重要ではありませんが、私が注目したいのは15-18節なのです。<sup>15</sup>それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。<sup>16</sup>信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。<sup>17</sup>信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、<sup>18</sup>その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」この箇所は、マルコの福音書に大宣教命令を加えるために、書かれているのです。しかし、これは大宣教命令としては非常に奇妙なバージョンですので、今朝は15-16節の核心だけに焦点を当てたいと思います。しかし、17-18節の聖書箇所を、使徒の働きと照らし合わせて考えると、意味がわかってきます。使徒の働きでは、異言や癒しという奇跡的なしるしの賜物が行われているからです。(使徒の働きでは)使徒たちが病人に手を置き、病人が癒やされたことが書かれています。また、毒を飲んだという具体的な例はありませんが、パウロが死んでもおかしくなかった事件に遭遇したこと、すなわち毒ヘビに噛まれても死ななかったことが書かれています。つまり、これは使徒の働きに書かれていることを要約しているに過ぎません。しかし、使徒の働きのこの箇所にある超自然的な要素から、人々は聖書的でない教えを作り出してきました。例えば、少数ではありますが、アメリカのアパラチア地方の山間部には、この聖書箇所を証明するために蛇を手で持つことを実践している教会が存在しています。しかし、このような実践はこの箇所が教えていることとはまったく違うのです。だからこそ、一つの聖書箇所のみをとって教義を作ってはならない理由がここにあります。特に、その聖書箇所が本来聖書の一部であるかが疑わしい場合はなおさら、一つの聖書箇所のみをとって教義をつくってはいけないのです。聖書の真理は、(聖書の)多くの箇所が登場しますし、歴史を通して何度も何度も繰り返し伝えられているのです。

これから申し上げることについて他の聖書箇所を用いて論拠を示すだけの時間がないので、割愛させていただきますが、もし後でこのことについて話したい人がいれば、私は喜んでお話しさせていただきますので、ぜひ私のところに来てください。今朝の聖書箇所に列挙され、使徒の働きにも書かれている偉業、あるいは賜物は、地域教会が形成され、その社会に対して福音の真理を継続的に示すことができるようになるまで、福音のメッセージ(の力)を示すために、(使徒たちに)与えられたものなのです。これは、私たち全員、私たちが集う地域教会に与えられた命令、15節の大宣教命令と結びついているのです。**全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。**この大宣教命令は、マタイの福音書28章19-20節にもみられます。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、

子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、<sup>20</sup>わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」これはキリストの体全体に対する命令であり、牧師や宣教師だけでなく、キリストに従う私たち一人ひとりに与えられた命令なのです。そして、マルコの焦点は、キリストに従う者とは何を意味しているのかということ明らかにする点にあったと思われるのですが、この命令は、キリストに従う者であれば当然、期待される結果は何なのかを示しているのです。もしあなたが救われ、イエス・キリストを主であり救い主であると知っていながら、神があなたに与えた様々な機会において福音を宣べ伝えていないなら、あなたは神の御言葉に背いていることとなります。16節には、毎週このようなメッセージの中で私が伝えている、そして私たちが他の人々に伝えるべき福音の内容が書かれています。<sup>16</sup>**信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。**救われるためには、イエスを主であり救い主であると信じ、聖書に基づいてバプテスマを受けることによって救われたことを証する必要があります。もしあなたが、「私は信じます」と言うだけで、あなたを地域教会の教会員とする（縛り付ける）バプテスマを受けることを拒否するのであれば、聖書はあなたの救いに何の保証も与えていないのです。そして、もしあなたが信じないのであれば、救われない者は、非難を受け、永遠に地獄で罰を受けることになるのです。

19–20節は、次のように、何世紀にもわたってこのマルコの福音書を締めくくっています。<sup>19</sup>**主イエスは彼らに語った後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。**<sup>20</sup>**弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた。**）繰り返になりますが、ここで言われていることは他の聖書箇所と矛盾するものではありません。事実、イエスは天に昇られ、父なる神に対して、私たちのためにとりなしをしてくださっているのです。ローマ人への手紙 8章34節には次のように書かれています。<sup>34</sup>**だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。**そして私たちは、使徒の働きで述べられていることから、20節が、イエスが天に帰られた後に起こることを正確に描写していることが分かります。しかし、ここで注目すべきは、20節は過去に起こったことを描写しているだけでなく、現在起こりうることを描いているという事実です。キリストの教会が、全世界に福音を宣べ伝えるという神の命令を真剣に受け止めるとき、神はその宣教活動において働かれます。あなたが救われていない家族がいる家に戻る時、あなたは一人ぼっちではないのです。あなたが救われていない同僚に囲まれた職場に働きに出る時、あなたは一人ぼっちではないのです。あなたが救われていない人たちに囲まれている近所に帰る時、あなたは一人ぼっちではないのです。キリストの体であるYIBCが、仲尾台、滝ノ上、山手、根岸、中区、横浜の周りの世界に福音を述べ伝えに出る時、キリストの体は決して一人ぼっちではないのです。マタイの福音書28章20節で約束されているように、主イエス・キリストの力と臨在によって行くのです。**わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。**イエスに従う者として、今週も神様から与えられた使命を果たすために、世界に出ていきましょう。それでは祈りましょう。

## Mark 16:9-20 Followers Go

Last week, we ended our study of Mark 16 with the resurrection. It is the end of what everyone agrees actually makes up the book of Mark. Today, we come to Mark 16:9-20, where our Bibles end the book of Mark, and we are confronted with a big problem. Bear with me for the first part of this message this morning, because we have to deal with this problem, but its going to feel very academic and not practical in any way to some of you. But stay with me, I will get to the text itself. In the English Standard Version, the text here does what several English versions do and puts a bracketed note at the beginning of verse 9 that says, [Some of the earliest manuscripts do not include 16:9-20.] The Japanese Shin Kai YakuSeisho takes a different approach and puts that note in a footnote. (READ IN JAPANESE) The English also has a footnote and I will read it as we just read the Japanese footnote: Mark 16:9 Some manuscripts end the book with 16:8; others include verses 9-20 immediately after verse 8. At least one manuscript inserts additional material after verse 14; (DON'T TRY TO TRANSLATE) You can't see these notes in most electronic versions only the paper version. This is one reason why I would encourage you for at least some things have a paper version of the Bible available. Now the Japanese Shin Kai YakuSeisho does something really interesting that I think only the New American Standard Bible does in English and actually gives you two different options directly in the text for the ending, not just verses 9-20. Here it is in Japanese tacked onto the end of verse 8. (READ IN JAPANESE). The English Standard Version also gives the same alternate ending, but in the footnote. It reads, some manuscripts include after verse 8 the following: But they reported briefly to Peter and those with him all that they had been told. And after this, Jesus himself sent out by means of them, from east to west, the sacred and imperishable proclamation of eternal salvation. These manuscripts then continue with verses 9-20. Let me just start by addressing that additional verse after verse 8 that ends with "amen" in the Japanese. It's very clear from the textual history that we can trace that that ending should be rejected as not original. It was added at some point in history because ending at verse 8 feels odd or the scribe copying knew there was another ending, but did not have the longer ending (verses 9-20) on any manuscript they were copying. There is a lot more to that argument, but let's move on to the primary text, verses 9-20.

This text is much harder to determine whether it is original to Mark or not. Based on my study, I will say that I hold very loosely to the understanding that Mark ends with Mark 16:8 with frightened women as witnesses to the resurrection. There are a few reasons why that ending at verse 8 makes sense, but to be honest, there are also literary and grammatical reasons why it may not be the case. It ends in Greek with a sentence structure that is just gramatically wrong to end with. It ends very abruptly, which seems odd. And it ends not focusing on the gospel where it began. That being said, with the emphasis on this being Peter's account of the gospel, it makes sense that it wraps up with just the simple focus on his forgiveness, but not the drawn out account of it from John. Mark regularly gives abrupt versions of events throughout the book, so it shouldn't surprise us that the book abruptly ends. He tells us what we need to know...Jesus was recognized as God and proved it by rising. Everything else in 9-20 doesn't add to that primary fact. While ending at verse 8 makes sense, there is evidence that both sides point to in making their case to include or exclude verses 9-20.

First there is the external evidence, outside of the language and facts of the book itself. While the long ending of Mark is definitely quite ancient, in fact we have some evidence of it by 160-170AD, the two oldest manuscripts in existence do not contain it, and many of the earliest church fathers commenting on the text do not seem to know of its existence. This is significant because out of the thousands of manuscripts of the Bible that exist in tiny pieces to full New Testaments, there is miraculous and incredible agreement among the manuscripts. Now to be fair, the vast number of manuscripts do include verses 9-20, but its hard to ignore the ancient witnesses to the earliest manuscripts not having it. Those scholars who defend it believe that the early New Testament texts that originated in the area of Alexandria influenced by Egypt did



not have it, but there were others that disappeared to time that did have it and then it reappeared but only in the Second century in the Byzantine area around Constantinople. But there is not manuscript evidence showing that.

But in addition to the external evidence, there is a lot of internal evidence in the text of the book of Mark itself that leads to a conclusion that verses 9-20 are likely not originally part of the book. The first and most obvious issue is the lack of any clear connection between Verse 9 and verse 8. Verse 8 ends focusing on the fear of the women. Verse 8 says, **8 And they went out and fled from the tomb, for trembling and astonishment had seized them, and they said nothing to anyone, for they were afraid.** How does that ending lead into verse 9 which says, **9 [[Now when he rose early on the first day of the week, he appeared first to Mary Magdalene, from whom he had cast out seven demons.** Mary Magdalene has just been a primary focus of all the verses from the death of Christ through the resurrection, so why does it seem now that the writer introduces her for the first time and suddenly gives us this fact of being formerly demon possessed like she is someone we have never met before? Additionally, there are also grammatical differences in verses 9-20 that separate it from the rest of Mark. It's pretty technical, but those who count words and look in detail at the uses of the Greek have noticed that the primary conjunction or connecting word used in 9-20 is different than the word used overwhelmingly everywhere else in Mark. Even the presence of what I will call the intermediate ending that we discussed earlier and read out of the ESV and the Shin Kai Yaku, is evidence that verses 9-20 are not original to the text since that intermediate ending would not exist if verses 9-20 appeared in all the early versions of Mark. That's the external and internal evidence, although there are thousands of pages and hours and hours of research examining all the evidence. I'm persuaded by the evidence that it is not original to Mark, but now I will quickly tell you, I think it's good that it stays in our Bibles and I will end by actually preaching from the text although I will support the primary message from other passages that are clearly in Scripture.

Here is why it is good that it is here. The fact that you can open your Bible and see a passage that says, we know that there are problems with this text should actually grow your faith in God's Word. After all the archeological discoveries of the past 2000 years, we are certain that Mark 1:1 – 16:8 are absolutely the Word of God as written down by the gospel writer Mark under the inspiration of the Holy Spirit. It is so rare that to see these uncertain passages that there are only 4 in the New Testament. Here in Mark, John 7:53-8:11 with the woman caught in adultery, Luke 22:43-44 where an angel appears to Jesus while on the cross and he sweats drops of blood, and 1John 5:7-8 which inserts a Trinitarian statement into the text. The Bible proves itself to be the perfect inerrant Word of God by how God has preserved it through the ages. We have far fewer copies of Shakespeare's plays written 1500 years after the Bible, even with the use of the printing press to make copies than we have of the Bible. And the copies we have of the Shakespeare plays that date to his time period of the 1550's have more differences in the texts than the Bible has in the thousands of copies of Biblical manuscripts available. So, when we can point to the very few disputable passages, it means we have certainty of what the Bible actually says. That means that we don't have to guess about what God says to us, because as **2Timothy 3:16-17 says, 16 All Scripture is breathed out by God and profitable for teaching, for reproof, for correction, and for training in righteousness, 17 that the man of God may be complete, equipped for every good work.** So, for every part of Mark that we have looked at until today, we can say with certainty, to be a follower of Christ, you must obey what has been revealed in this book. And what has been revealed is that Jesus is the Son of God who died on the cross to be your Savior, and only by repenting of your sin and accepting him are you saved from sin.

But to end our study in Mark, while I don't think we can have the same certainty about the text, we CAN KNOW that the message of this final passage is the message that Jesus left his disciples with and leaves us with as well. I'll explain why as we wrap up Mark today. Let's read

this passage as we close. <sup>9</sup> [[Now when he rose early on the first day of the week, he appeared first to Mary Magdalene, from whom he had cast out seven demons. <sup>10</sup> She went and told those who had been with him, as they mourned and wept. <sup>11</sup> But when they heard that he was alive and had been seen by her, they would not believe it. Let's briefly stop here. Luke 8:2 actually tells us Mary Magdalene had these demons cast out and we know that this happened exactly in this way because Luke also tells us about it in [Luke 24:10-11](#). <sup>10</sup> Now it was Mary Magdalene and Joanna and Mary the mother of James and the other women with them who told these things to the apostles,<sup>11</sup> but these words seemed to them an idle tale, and they did not believe them. Let's keep reading at verse 12. <sup>12</sup> After these things he appeared in another form to two of them, as they were walking into the country. <sup>13</sup> And they went back and told the rest, but they did not believe them. Let's stop there again. We also know about this from the book of Luke. [Luke 24:13 and 15](#) says, That very day two of them were going to a village named Emmaus, about seven miles from Jerusalem, <sup>15</sup> While they were talking and discussing together, Jesus himself drew near and went with them. Then we continue with verse 14. <sup>14</sup> Afterward he appeared to the eleven themselves as they were reclining at table, and he rebuked them for their unbelief and hardness of heart, because they had not believed those who saw him after he had risen. This verse isn't quite as clear in Luke, but very close to what we read in [Luke 24:36-39](#). <sup>36</sup> As they were talking about these things, Jesus himself stood among them, and said to them, "Peace to you!" <sup>37</sup> But they were startled and frightened and thought they saw a spirit. <sup>38</sup> And he said to them, "Why are you troubled, and why do doubts arise in your hearts? <sup>39</sup> See my hands and my feet, that it is I myself. Touch me, and see. For a spirit does not have flesh and bones as you see that I have." So nothing that is added to Mark goes against other parts of what we know with certainty to be Scripture. And while all of these other details are important to prove Jesus rose from the dead, what I want to focus on is verses 15-18. <sup>15</sup> And he said to them, "Go into all the world and proclaim the gospel to the whole creation. <sup>16</sup> Whoever believes and is baptized will be saved, but whoever does not believe will be condemned. <sup>17</sup> And these signs will accompany those who believe: in my name they will cast out demons; they will speak in new tongues; <sup>18</sup> they will pick up serpents with their hands; and if they drink any deadly poison, it will not hurt them; they will lay their hands on the sick, and they will recover." This is included to add the Great Commission to the book of Mark. There is a sense, though, that this is a very odd version of the Great Commission, so I want to just focus on the core of verses 15-16. But if you look at verses 17-18 in light of the book of Acts, they start to make sense. Because in Acts we see the miraculous sign gifts of tongues and healings take place. We see the Apostles lay hands on sick people and they recover. We don't have a specific example of drinking poison, but we see Paul get bitten by a deadly snake and live. So this is just summarizing what we see in Acts. Now just like with the book of Acts, people have created unBiblical teaching from these supernatural elements in these verses. There are even a very few churches in the Appalachian mountain areas of the United States where they practice snake handling because of these verses. But that is not at all what this passage is teaching, and it is another reason to not take doctrine especially from only one line of Scripture, especially if that Scripture is doubtful that it is even in the text. The real truth in Scripture is repeated over and over through many passages and even periods of history.

I don't have time to support this statement, so I will just say it, and if any of you want to talk to me about it later, I am happy to discuss it. The sign gifts listed here and given in the book of Acts were given to support the gospel message being proclaimed until the local church could be formed and be the ongoing demonstration to that society of the truth of the gospel. They were connected with the primary command given to all of us and therefore to our local churches where we gather, the Great Commission of verse 15. "Go into all the world and proclaim the gospel to the whole creation. We also see this command in [Matthew 28:19-20](#), <sup>19</sup> Go therefore and make disciples of all nations, baptizing them in the name of the Father and of the Son and of the Holy Spirit, <sup>20</sup> teaching them to observe all that I have commanded you. And behold, I am with you always, to the end of the age." This is a command given to the entire Body of Christ,

not just pastors, not just missionaries, but to each of us who are followers of Christ. And while I think Mark's focus was primarily what it means to be a follower of Christ, this command is the natural and expected outcome of being a follower of Christ. If you are saved, if you know Jesus Christ as your Lord and Savior and you are not proclaiming the gospel with whatever opportunities God has given you, then you are in disobedience to God's Word. Verse 16 actually gives us the content of that gospel that I hope you hear every week in this pulpit and that we are supposed to be sharing with others, **<sup>16</sup>Whoever believes and is baptized will be saved, but whoever does not believe will be condemned.** You must believe in Jesus as Lord and Savior to be saved and you testify to your salvation by being Scripturally baptized. If you just say, I believe, but you refuse to be baptized, which also ties you to the local church when properly understood, then I would say the Bible does not give us any assurance of your salvation. And for those who do not believe, who are not saved, you face condemnation, punishment in hell for eternity.

Verses 19-20 end this passage and for centuries now this book by saying, **<sup>19</sup>So then the Lord Jesus, after he had spoken to them, was taken up into heaven and sat down at the right hand of God.<sup>20</sup> And they went out and preached everywhere, while the Lord worked with them and confirmed the message by accompanying signs.]** Once again, nothing said here contradicts scripture. In fact, we know that Jesus did ascend to Heaven and is interceding for us to God the Father. **Romans 8:34 says, Who is to condemn? Christ Jesus is the one who died—more than that, who was raised—who is at the right hand of God, who indeed is interceding for us.** And we know from the book of Acts that verse 20 describes exactly what happens after Jesus returns to Heaven. But verse 20 is more than just a description of what happened in the past, it is a picture of what can happen in the present. When the church of Christ takes seriously the mission of God to proclaim the gospel to all the world, God will be at work in the proclamation going forth. You don't go into your homes to your unsaved family alone. You don't go into your workplace surrounded by unsaved co-workers alone. You don't go into your neighborhood of unsaved people alone. Body of Christ at YIBC, we don't go into the world around us in Nakaodai, Takinoue, Yamate, Negishi, Nakaku, Yokohama alone. We go with the power and presence of our Lord Jesus Christ, who promised in Matthew 28:20, **And behold, I am with you always, to the end of the age.** As followers of Christ, let's go be on mission for Christ, this week! Let's pray.